

2025年度第3四半期決算の概要及び 2025年度業績予想の概要

三井化学株式会社

本資料の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2026年2月5日

目次

1. 決算及び業績予想のポイント

1) 2025年度第3四半期決算の概要	…1
2) 2025年度第3四半期決算のポイント	…2
3) 2025年度業績予想のポイント	…3
4) 株主還元	…4

2. 2025年度第3四半期決算の概要

1) 主要関連市場動向	…6
2) 主な投資案件等の状況	…7
3) 第3四半期決算の概要	…8-9
4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減（対前年同期）	…10
5) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向（対前年同期）	…11-14
6) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減（3Q対前年同期）	…15
7) 非経常項目の内訳	…16
8) 財政状態計算書	…17
9) キャッシュ・フロー計算書	…18

3. 2025年度業績予想の概要

1) 業績予想の概要	…20-21
2) ベーシック＆グリーン・マテリアルズ25年度一過性および構造改善効果	…22
3) セグメント別 売上収益/コア営業利益予想（対前年）	…23
4) セグメント別 コア営業利益増減/事業動向（対前年）	…24-27
5) セグメント別 コア営業利益増減（対前年下期同期、3Q→4Q）	…28
6) キャッシュ・フロー計算書の予想	…29

4. 補助資料

…31-36

1. 決算及び業績予想のポイント

- **成長領域はICTを中心に販売堅調**により、3Qのコア営業利益は830億円、通期予想は1,240億円と前回からも変更なし。
- **米国関税政策の影響は、モビリティリューションにおいて北米の自動車生産台数の減少等も見られ、年間で△40億円程度を見込む。**
- **ベーシック&グリーン・マテリアルズのコア営業利益は、市況の悪化に加え誘導品の需要の減少によりクラッカーを中心に低稼働が続き、3Qでは前年からも減益の△128億円の損失、前回予想からも減益の年間△150億円の損失を見込む。**
- **コア営業利益の予想は、成長領域は前回予想を据え置くものの、ベーシック&グリーン・マテリアルズの減益見込みにより、1,030億円に下方修正、それに伴い親会社に帰属する当期利益も420億円に下方修正。**
- **株主還元は、300億円の自己株式取得を予定。また、自己株式の取得の完了時点における当社の発行済株式総数の5%程度になるように自己株式を消却予定。**

(単位：億円)

摘要	要	25年度 1-3Q決算	25年度 予想	内容
コア営業利益	680	1,030		
(うち、成長領域)	830	1,240	ICTを中心に販売堅調により順調に進捗	
(うち、ベーシック&グリーン・マテリアルズ)	△ 128	△ 150	原料価格下落に伴う在庫評価損、市原大規模定期修理、クラッcker低稼働	
非経常項目	△ 134	△ 160	事業構造改善：中国PH事業JV、Kulzer、ARRK、その他設備の撤去等	
親会社の所持者に 帰属する当期利益	226	420		

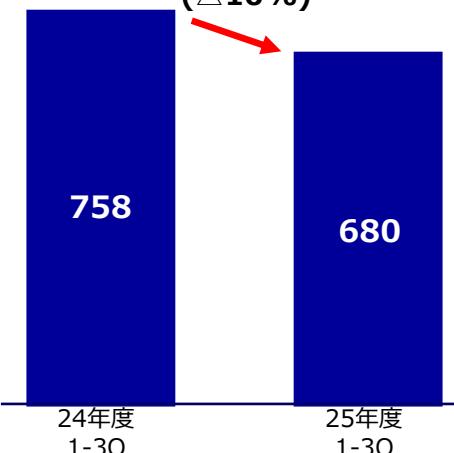
2) 2025年度第3四半期決算のポイント：コア営業利益

- 全社のコア営業利益は、ICTソリューションは販売が堅調に推移したことにより増益となったものの、ベーシック&グリーン・マテリアルズにおけるナフサ価格の下落に伴う在庫評価損・市原大規模定期修理、低稼働の影響等により前年比△78億円（△10%）減益の680億円となった。
- 成長領域のコア営業利益は、ICTの販売数量は堅調に推移したものの、海外農薬の販売期ずれ、モビリティでの米国関税政策や半導体供給不足、米国アルミニ工場火災の影響を受け販売数量の減少、円高による為替差損等により△18億円（△2%）減益の830億円となった。

■コア営業利益増減

全社合計
△78
(△10%)

(億円)



(億円)

+31
数量差

成長領域

交易条件
△37
為替(△)

固定費他
△12

830

848

2

△18

(△2%)

25年度
1-3Q

24年度
1-3Q

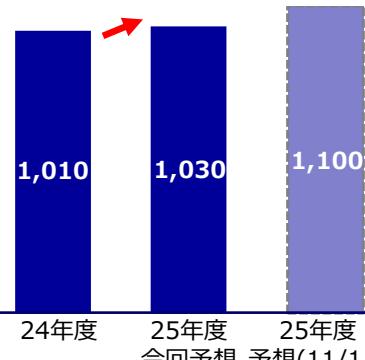
3) 2025年度業績予想のポイント：コア営業利益

- 全社のコア営業利益は、前年比+20億円(+2%)増益の1,030億円、11/11予想からは△70億円減益を見込む。
 - ・成長領域は、円高による為替差損はあるものの、ライフ＆ヘルスケアはビジョンケア・農薬を中心に堅調、ICTは先端領域の需要拡大・半導体市場回復に伴う販売数量増加により、前年比+81億円(+7%)増益の1,240億円を見込む。
 - ・ベーシック＆グリーン・マテリアルズは、事業構造改善およびエチレンプラントトラブル影響の解消はあるも、ナフサ価格の下落に伴う在庫評価損・市原大規模定期修理・低稼働影響により、前年比△36億円減益の△150億円を見込む。
- 対11/11予想において、ベーシック＆グリーン・マテリアルズは、低稼働および市況下落等に伴い、△80億円の減益を見込む。

■コア営業利益増減

全社合計 (億円)

+20
(+2%)



(億円)

成長領域

L&H
+14

モビリティ
△21

ICT
+88

+81
(+7%)

1,240

25年度
今回予想

3

予想(11/11)

(億円)

ベーシック＆グリーン・マテリアルズ

△36

在庫評価損(△)
大修(△)
市況(△)
低稼働(△)
構造改善(+)

25年度
今回予想(11/11)

△80

△150

△70

24年度

△114

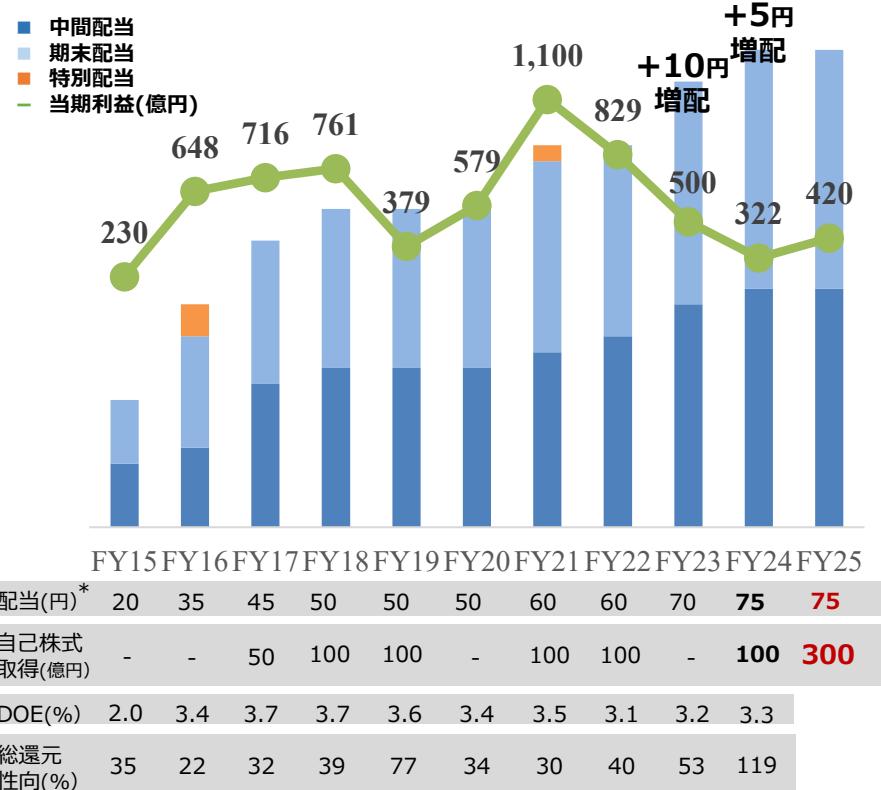
トラブル解消

△150

△70

4) 株主還元

資本効率の改善や株主還元の実効性の向上を目的として、自己株式の取得及び消却を実施することいたしました。これに伴いROEの向上ひいては企業価値・PBRの向上を目指してまいります。



- 株式分割（2026年1月1日）
 - ▶ 1株を2分割し投資家層のさらなる拡大を図る

● 25年度配当予想

中間	期末	年間
37.5 円/株	+	37.5 円/株
(分割前75円/株)		= 75 円/株 (分割前150円/株)

● 自己株式取得

300億円

【還元方針】

資本効率向上と安定的かつ継続的な配当の実現

- ✓ 総還元性向 40%以上
- ✓ DOE 3.0%以上を目指す

(FY28までに4.0%を視野に還元強化を検討)

- ✓ 機動的かつ柔軟な自己株式取得

2. 2025年度第3四半期決算の概要

- ・25年度より、エム・エーライフマテリアルズ株式会社はライフ＆ヘルスケア・ソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。また、他一部の関係会社についてモビリティソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。なお、24年度のセグメントも、変更後の報告セグメント区分に基づき作成しております。

1) 主要関連市場動向

関連市場		25年度			25年度予想 (対11/11予想)
		3Q	4Q予想	3Q→4Q	
ライフ&ヘルスケア・ソリューション	メガネレンズ市場	堅調に推移	堅調に推移	➡	変化なし ➡
	農薬市場	一部在庫調整はあるも 堅調に推移	一部在庫調整はあるも 堅調に推移 (国内需要期)	➡	変化なし ➡
モビリティソリューション	自動車生産台数(世界) *			➡	➡ ↘
	日本 北米 中国 ASEAN 欧州	グローバルな生産台数に 大きな変化はないものの、 北米を中心に関税影響や 半導体不足、米国アルミ工場の火災 の影響をうけ自動車生産台数は減少	季節性の影響はあるが、 グローバルな生産台数は 大きな変化なし 北米も徐々に回復傾向	➡ ➡ ➡	半導体供給不足や米国アルミ 工場の火災の影響により、 北米中心に生産台数減少 ➡ ➡
ICTソリューション	半導体市場	半導体需要堅調	季節性の影響はあるも、 半導体需要堅調	➡	変化なし ➡
	スマートフォン市場	需要は前年並みに推移	需要は前年並みに推移	➡	変化なし ➡
ペーシック&グリーン・マテリアルズ	クラッカ稼働率	低稼働 (70%前半)	低稼働継続 (70-75%程度)	➡	低稼働 (80%程度) ↘

* 外部機関参考による当社推定値

2) 主な投資案件等の状況

主な投資案件		時期	能力	FY23	FY24	FY25	FY26以降
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	メガレンズモノマー能力増強@Japan	24年1月	-				
	メガレンズモノマー能力増強@Japan 2025.01.15公表	28年度上期	-				
	DNAチップ研究所社完全子会社化	25年度1Q	-				
モビリティソリューション	タフマー®新設@Singapore	25年度下期	120KT				
	高機能PP新設備@Japan	25年度下期	200KT				
	イクロステープ™能力増強@Taiwan	24年6月	380万m ²				
	三井化学東セロの株式分割及び一部株式譲渡	24年4月	-				
	ポリウレタンディスパージョン(PUD)能力増強@Japan	25年6月	+100%				
	特殊イシシアネットXDI能力増強@Japan	25年9月	+20%				
ICTソリューション	次世代EUV露光用CNTペリクル生産設備@Japan	26年3月	5千枚				
	半導体実装領域における材料開発強化に向けた出資	25年3月	-				
	錦湖三井化学 MDI能力増強@Korea	24年9月	200KT				
	錦湖三井化学 MDI能力増強@Korea 2025.12.15公表	27年5月	100KT				
新事業・新製品		第2号CVCアンド(321Catalyst™)設立	25年5月	-			

最適化・再構築	高純度テレフタル酸(PTA)生産停止@Japan	23年8月	400KT	生産停止
	ポリエチレンテレフタート(PET)の生産停止@Japan	24年10月	145KT	生産停止
	TDI生産能力最適化@Japan	25年7月	120KT→50KT	生産能力最適化
	市原フェノールの生産停止@Japan	25年10月	190KT	生産停止
	フェノールJV持分譲渡@China	25年10月	-	持分譲渡
	国内ポリオレフィン事業統合	26年7月	-	生産最適化
	千葉地区LLPエチレン装置集約による生産最適化	27年度	-	生産最適化
	西日本エチレン製造設備の生産体制最適化およびグリーン化の推進	30年度目途	-	生産最適化
	モビリティセグメント子会社株式譲渡@Japan(産業資材)	25年4月	-	株式譲渡
	ICTセグメント子会社株式譲渡@Japan	24年9月	-	株式譲渡
ニフ化窒素(NF3)生産停止@Japan		26年3月	-	生産停止

25年度 商業運転開始等

25年度 意思決定案件等

3 - 1) 第3四半期決算の概要

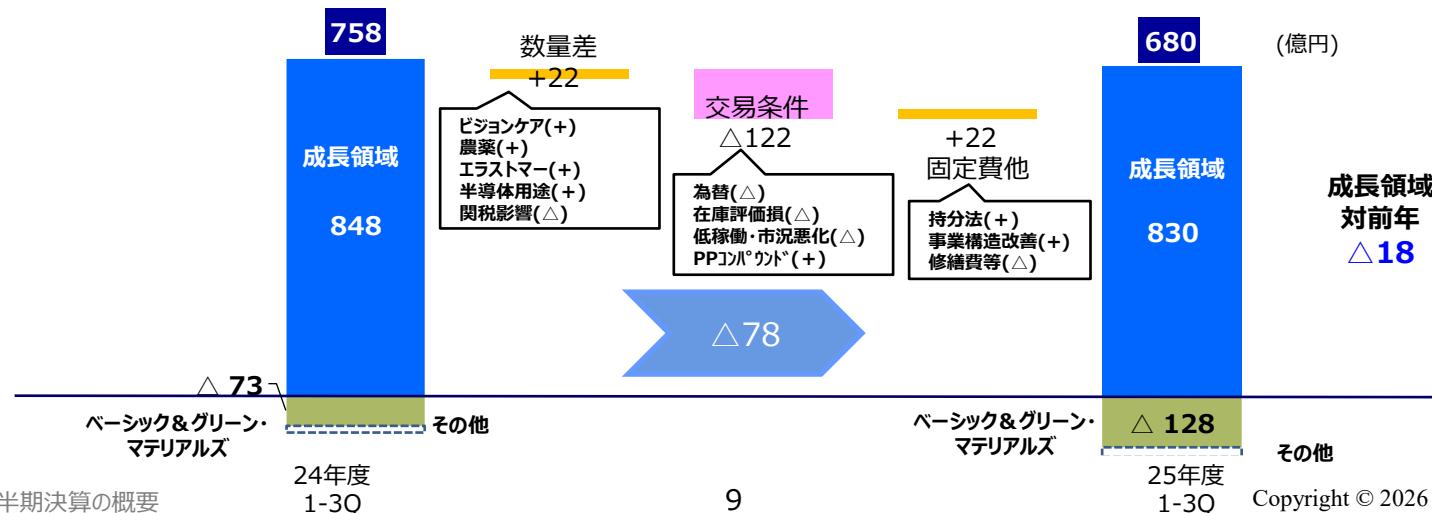
(単位 : 億円)

摘要	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減	増減率
売上収益	13,388	12,187	△ 1,201	△9%
コア営業利益 (うち、持分法による投資損益)	758 88	680 139	△ 78 51	△10% 58%
非経常項目	△ 89	△ 134	△ 45	-
営業利益	669	546	△ 123	△18%
金融収益・費用	△ 9	△ 31	△ 22	-
税引前四半期利益	660	515	△ 145	△22%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	377	226	△ 151	△40%

為替レート(円/US\$)	153	149	△ 4
国産ナフサ(円/KL)	76,400	65,000	△ 11,400

3 - 2) 第3四半期決算の概要：コア営業利益（対前年同期）

項目	内容	
	主な増加要因(+)	主な減少要因(△)
数量	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンケアは需要堅調により販売数量増加 ・農薬は国内中心に需要堅調により販売数量増加 ・成長市場への多用途展開によりエラストマーの販売数量増加 ・半導体関連は先端領域の需要拡大および市場の回復により販売数量増加 	自動車関連は、関税影響や半導体供給不足、米国アルミ工場の火災に起因した生産台数減少により販売数量減少
交易条件	PPコンパウンドは価格改定による一時的な交易条件改善	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差による交易条件の悪化 ・原料価格下落に伴う在庫評価損 ・クラッカーおよび誘導品の低稼働に伴うエネルギー効率悪化
固定費他	<ul style="list-style-type: none"> ・持分法投資損益の改善 ・事業構造改善による収益改善 	市原大規模定期修理に伴う固定費の増加

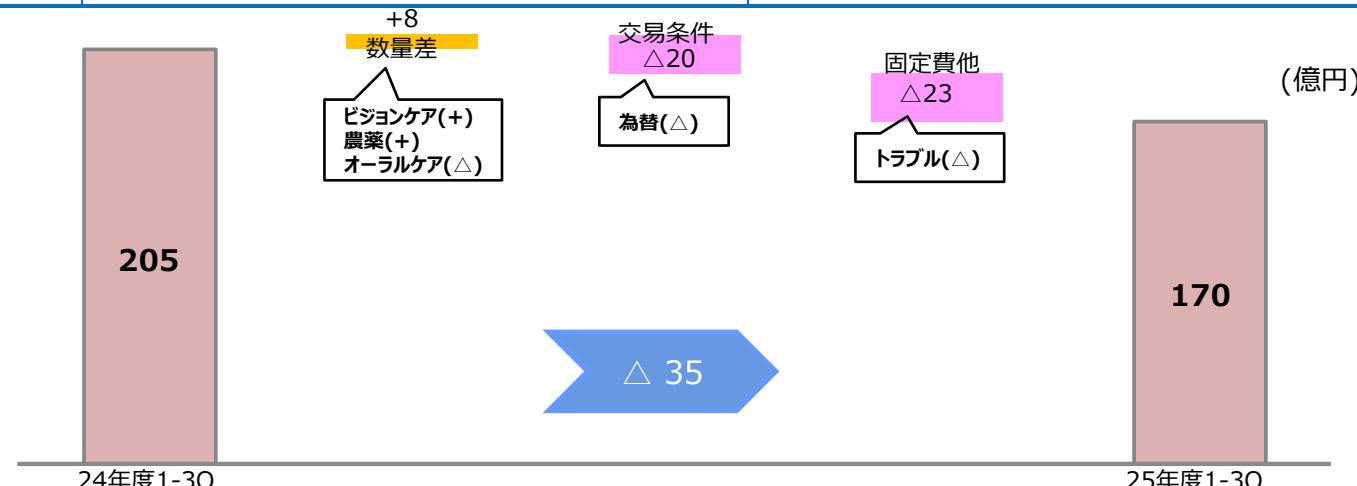


4) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減 (対前年同期)

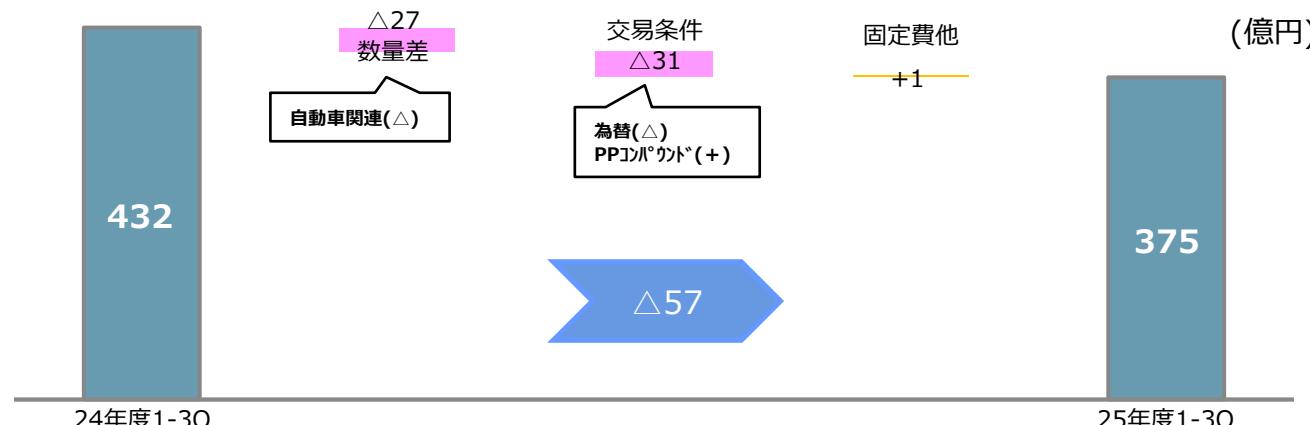
(単位 : 億円)

セグメント	売上収益			コア営業利益			増減内訳		
	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減	数量差	交易条件	固定費他
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	1,728	1,741	13	205	170	△ 35	8	△ 20	△ 23
モビリティソリューション	4,165	3,828	△ 337	432	375	△ 57	△ 27	△ 31	1
I C T ソリューション	2,097	2,084	△ 13	211	285	74	50	14	10
成長領域 (売上収益コア営業利益率)	7,990	7,653	△ 337	848 (10.6%)	830 (10.8%)	△ 18	31	△ 37	△ 12
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	5,288	4,425	△ 863	△ 73	△ 128	△ 55	△ 9	△ 85	39
その他の	110	109	△ 1	△ 17	△ 22	△ 5	-	-	△ 5
合 計	13,388	12,187	△ 1,201	758	680	△ 78	22	△ 122	22

	動向	25年度第3四半期決算/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
ビジョンケア	➡	需要堅調により販売数量増加	大牟田工場製造設備稼働停止による損失	数量(+) 固定費(△)
オーラルケア	➡	事業構造改善を着実に推進	在庫調整の影響により販売数量減少	数量(△) 構造改善(+)
農薬	➡	一部地域で在庫調整の影響は続くものの、国内中心に販売は堅調に推移 (但し、3Qから4Qへの販売期ずれの影響含む)	円高による為替差損	数量(+) 為替(△)

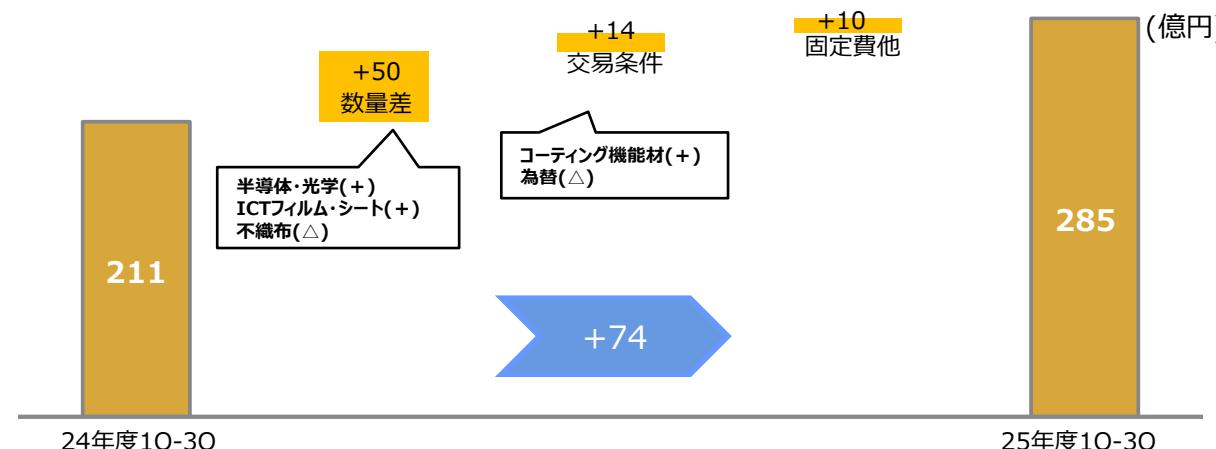


	25年度第3四半期決算/事業動向			増減
	動向	主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
エラストマー	➡	成長市場への多用途展開による販売数量増加	円高による為替差損	数量(+) 為替(△)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	➡	原料価格変動に伴う価格改定による一時的な 交易条件改善	・関税影響や半導体供給不足、米国アルミ工場 の火災に起因した自動車生産台数減少により 販売数量減少 ・円高による為替差損	数量(△) 交易条件(+) 為替(△)
ソリューション事業	➡	事業構造改善を着実に推進	OEMの開発費抑制に伴う受注減	数量(△) 構造改善(+)

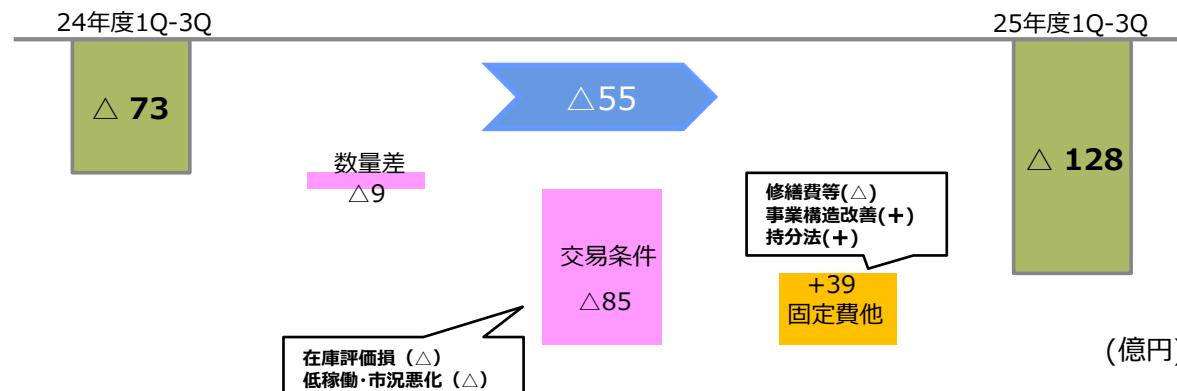


5-3) ICTソリューション:コア営業利益増減/事業動向（対前年同期）

動向	25年度第3四半期決算/事業動向		増減
	主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
半導体・光学 ➡	先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加	円高による為替差損	数量(+) 為替(△)
コーティング機能材 ➡	原料価格変動に伴う交易条件の改善	・円高による為替差損 ・新プラント稼働による固定費増加(PUD・特殊イソシアネート能力増強)	交易条件(+) 為替(△) 固定費(△)
ICTフィルム・シート ➡	先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加	円高による為替差損	数量(+) 為替(△) 固定費(△)
不織布 ➡	事業構造改善を着実に進捗	衛生材料の販売数量は減少	数量(△) 構造改善(+)



	動向	25年度第3四半期決算/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
石化	➡	24年度大阪エチレンプラントトラブル影響の解消	<ul style="list-style-type: none"> 低稼働に伴うエネルギー効率悪化 原料価格下落による在庫評価損 市原大定修に伴う固定費増加 	ブラブル解消(+) 交易条件(△) 在庫(△) 固定費(△)
基礎化	➡	事業構造改善による収益改善	<ul style="list-style-type: none"> 原料価格下落による在庫評価損 修繕費等の固定費増加 	在庫(△) 構造改善(+) 固定費(△)
ウレタン	⬅	<ul style="list-style-type: none"> 持分法投資損益の増加 事業構造改善による収益改善 	—	持分法(+) 構造改善(+)



6) セグメント別 売上収益/コア営業利益増減 (3Q対前年同期)

(単位：億円)

セグメント	売上収益			コア営業利益			主要増減要因
	24年度 3Q決算	25年度 3Q決算	増減	24年度 3Q決算	25年度 3Q決算	増減	
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	573	588	15	52	40	△ 12	農薬) 25年度3Qの海外農薬の販売が4Qへ期ずれ
モビリティソリューション	1,397	1,246	△ 151	148	115	△ 33	関税影響や半導体供給不足、米国アルミ工場火災を起因とした自動車用途での減販
ICソリューション	699	714	15	83	107	24	半導体関連堅調
成長領域	2,669	2,548	△ 121	283	262	△ 21	
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	1,778	1,469	△ 309	△ 47	△ 23	24	構造改善の効果等
その他の	37	34	△ 3	△ 6	△ 4	2	
合 計	4,484	4,051	△ 433	230	235	5	

7) 非経常項目の内訳

(単位：億円)

摘要	要	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減	内容
減損	損失	△ 65	△ 104	△ 39	25年度1-3Q 中国PH事業JV持分譲渡* △79
関連事業	損失	-	△ 29	△ 29	25年度1-3Q KulzerおよびARRK 事業構造改善
その他		△ 24	△ 1	23	
非経常項目	合計	△ 89	△ 134	△ 45	

*中国PH事業JV持分譲渡：3Qで為替換算調整勘定の実現益 +45億円により、年間での影響額は △79億円

8) 財政状態計算書

(単位：億円)

摘要	25年3月末	25年12月末	増減	摘要	25年3月末	25年12月末	増減
流動資産	(10,412)	(10,152)	(△ 260)	負債	(11,834)	(12,039)	(205)
現金及び 現金同等物	1,706	1,922	216	営業債務	1,578	1,503	△ 75
営業債権	3,495	3,040	△ 455	有利子負債	7,917	8,148	231
棚卸資産	4,428	4,432	4	その他の 資本	2,339	2,388	49
その他の 資産	783	758	△ 25	親会社の所有者に 帰属する持分	(9,706)	(10,052)	(346)
非流動資産	(11,128)	(11,939)	(811)	非支配持分	8,483	8,774	291
有形固定資産及び 使用権資産	6,692	7,211	519		1,223	1,278	55
のれん及び 無形資産	873	979	106				
非流動の その他の資産	3,563	3,749	186				
合計	21,540	22,091	551	合計	21,540	22,091	551

総資産は、主に原料価格の変動による売掛金や中国PH事業ライトアセットによる資産の減少はあるも、大規模定期修理等による資産の増加により対前年度末 + 551億円の22,091億円となった。

(単位：億円)

摘要	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減
I . 営業活動によるキャッシュ・フロー (A) (うち運転資金)	1,414 78	1,410 482	△ 4 404
II . 投資活動によるキャッシュ・フロー (B) (うち事業売却等による収入)	△ 808 119	△ 970 102	△ 162 △ 17
フリー・キャッシュ・フロー (A + B)	606	440	△ 166
III . 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 905	△ 310	595
IV . その他 (現金等に係る換算差額)	58	86	28
現金及び現金同等物増減	△ 241	216	457

- ・営業キャッシュ・フロー：主に運転資金の改善により対前年同期比並みの +1,410 億円となった。
- ・投資キャッシュ・フロー：引き続き積極投資を進めている一方、事業ポートフォリオ変革に伴う、事業売却による収入もあり、△970 億円となった。

3. 2025年度業績予想の概要

- ・25年度より、エム・エーライフマテリアルズ株式会社はライフ＆ヘルスケア・ソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。また、他一部の関係会社についてモビリティソリューションからICTソリューションへ帰属セグメントを見直しております。なお、24年度のセグメントも、変更後の報告セグメント区分に基づき作成しております。

1 - 1) 業績予想の概要 (対前年)

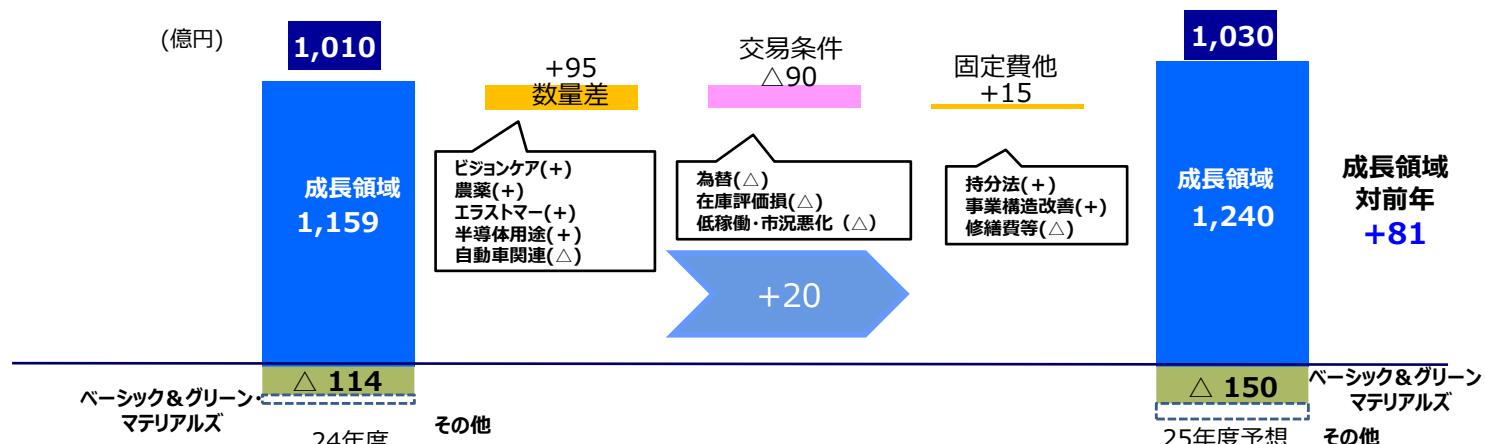
(単位: 億円)

摘要	24年度決算		25年度予想		増減		25年度期初予想 (25.11.11発表)
	上期	年度(a)	上期	年度(b)	年度 (b)-(a)	%	
売 上 収 益	8,904	18,092	8,136	16,750	△ 1,342	△7%	17,000
コ ア 営 業 利 益	528	1,010	445	1,030	20	2%	1,100
非 経 常 項 目	△ 68	△ 227	△ 166	△ 160	67	-	△ 150
営 業 利 益	460	783	279	870	87	11%	950
金 融 収 益 ・ 費 用	△ 52	△ 67	△ 17	△ 70	△ 3	-	△ 70
税 引 前 利 益	408	716	262	800	84	12%	880
親会社の所有者に帰属する当期利益	222	322	78	420	98	30%	550
為替レート(円/US\$) 国産ナフサ(円/KL)	153 77,950	153 75,600	146 64,750	150 65,000	△ 3 △ 10,600		147 64,900
配 当*	中間 37.5 円/株	通期 75 円/株	中間 37.5 円/株	通期 75 円/株	増減 -	通期 75 円/株	

*2026年1月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、株式分割後の値にしております。

1-2) 業績予想の概要：コア営業利益（対前年）

項目	内容	
	主な増加要因(+)	主な減少要因(△)
数量	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンケアは需要堅調により販売数量増加 ・農薬は国内中心に需要堅調により販売数量増加 ・成長市場への多用途展開によりエラストマーの販売数量増加 ・半導体関連は先端領域の需要拡大および市場の回復により販売数量増加 	自動車関連は、関税影響や半導体供給不足、米国アルミ工場の火災に起因した生産台数減少により販売数量減少
交易条件	<ul style="list-style-type: none"> ・PPコンパウンドは価格改定による一時的な交易条件改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・為替差による交易条件の悪化 ・原料価格下落に伴う在庫評価損 ・クラッカーおよび誘導品の低稼働に伴うエネルギー効率悪化
固定費他	<ul style="list-style-type: none"> ・持分法投資損益の改善 ・事業構造改善による収益改善 	市原大規模定期修理に伴う固定費の増加



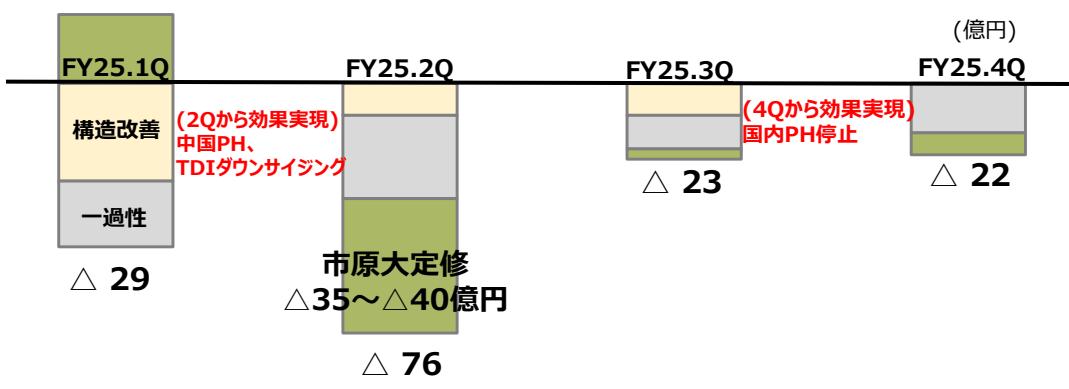
2) ベーシック&グリーン・マテリアルズ25年度一過性および構造改善効果

- 25年度実施の構造改善により、1Qの構造改善前の30億円程度の損失から2Q以降着実に効果が実現。
- 来期に向けては、一過性の要因（65億円～70億円）や構造改善のフル効果（50億円程度）を織り込むことに加え、値上げや合理化、ポリオレfinの事業統合により早期に収益黒字化を目指す。
- 全社一丸となり安全第一の基本に立ち返り、再発防止と全従業員の更なる安全意識向上に全力で取り組みトラブルを撲滅。

	内容	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
構造改善*	中国PH株式譲渡(2Q)、国内PH停止(4Q) TDIダウンサイジング(2Q)	△30億円程度	△10億円程度	△10億円程度	—	△50億円程度
一過性 要因	塩素系ガス漏洩トラブル	—	△5億円程度	△10～△15億円程度	△10億円程度	△25～△30億円 程度
	MDP大竹工場停止影響	—	△15億円程度	—	—	△15億円程度
	韓国MDIサプライヤー停止影響	—	—	—	—	—
	OPC再点検に伴う停止	—	—	—	—	—
	原料価格変動に伴う在庫評価差	△20億円程度	△5億円程度	+5億円程度	△5億円程度	△25億円程度

*今期の効果は記載している四半期以降のみであり、年間に記載の効果は来期への改善が見込まれる。

■ 四半期別コア営業利益推移

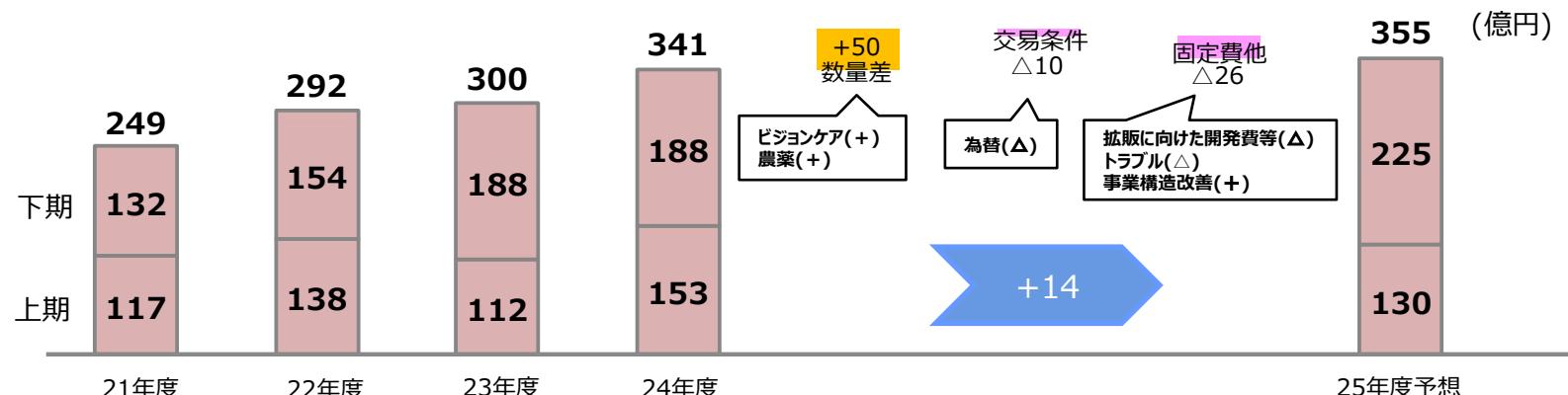


3) セグメント別 売上収益/コア営業利益予想 (対前年)

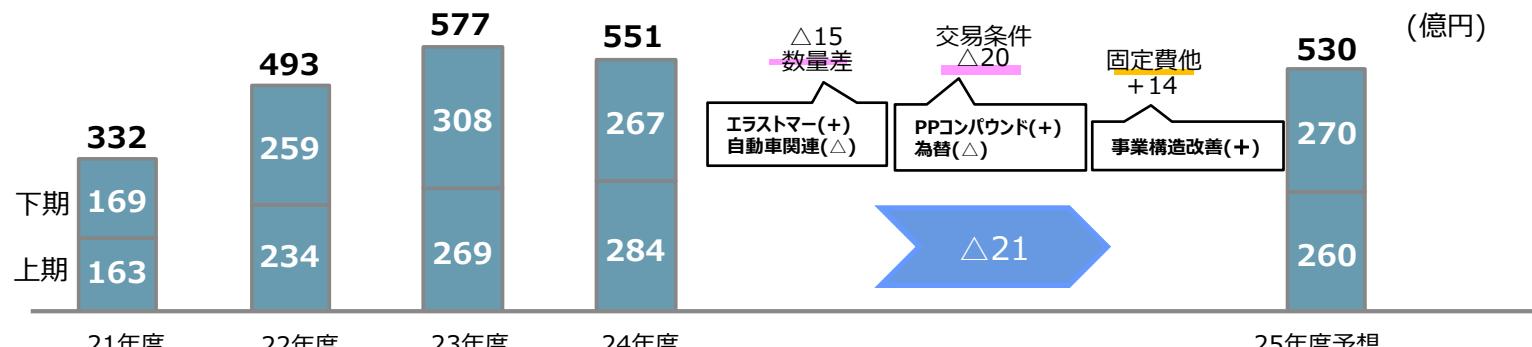
(単位 : 億円)

セグメント	売上収益			コア営業利益			増減内訳		
	24年度決算	25年度予想	増減	24年度決算	25年度予想	増減	数量差	交易条件	固定費他
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	2,517	2,700	183	341	355	14	50	△ 10	△ 26
モビリティソリューション	5,551	5,100	△ 451	551	530	△ 21	△ 15	△ 20	14
I C T ソリューション	2,776	2,800	24	267	355	88	80	10	△ 2
成長領域 (売上収益コア営業利益率)	10,844	10,600	△ 244	1,159 (10.7%)	1,240 (11.7%)	81	115	△ 20	△ 14
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	7,100	6,000	△ 1,100	△ 114	△ 150	△ 36	△ 20	△ 70	54
その他の	148	150	2	△ 35	△ 60	△ 25	-	-	△ 25
合 計	18,092	16,750	△ 1,342	1,010	1,030	20	95	△ 90	15

	動向	25年度予想/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
ビジョンケア	↑	需要堅調により販売数量増加	大牟田工場製造設備稼働停止による損失	数量(+) 固定費(△)
オーラルケア	→	事業構造改善を着実に進捗 (販売拠点の整理)	-	構造改善(+)
農薬	↑	一部地域で在庫調整の影響は続くものの、国内 中心に販売は堅調に推移	・円高による為替差損 ・拡販に伴う登録維持費、試験費等の研究費 が増加	数量(+) 為替(△) 固定費(△)

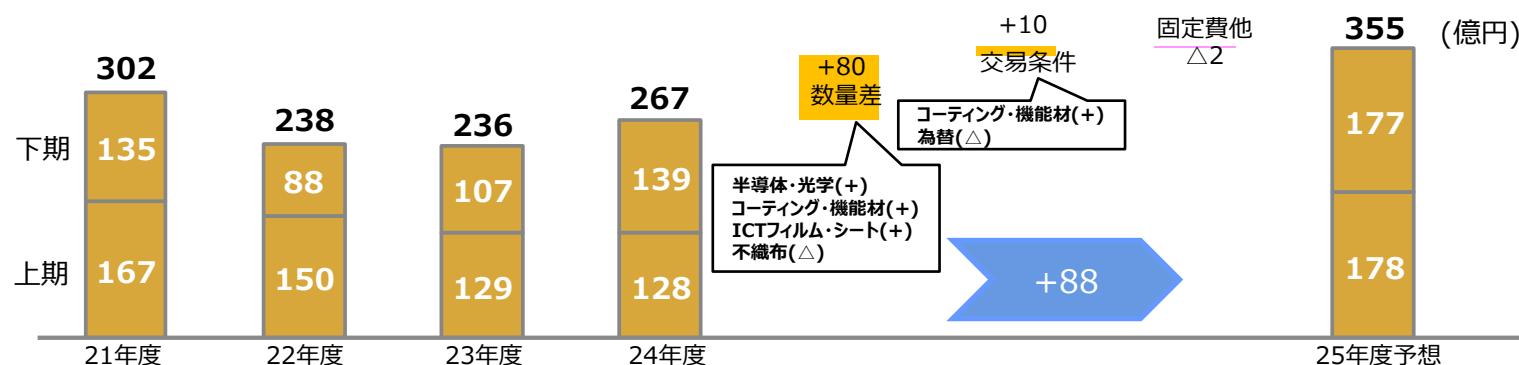


	動向	25年度予想/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
エラストマー	➡	成長市場への多用途展開による販売 数量増加	円高による為替差損	数量(+) 為替(△) 固定費(△)
複合材料 (PPコンパウンド 機能性コンパウンド)	➡	原料価格変動に伴う価格改定による 一時的な交易条件改善	・関税影響や半導体供給不足、米国アルミ工場の火災 に起因した自動車生産台数減少により 販売数量減少 ・円高による為替差損	数量(△) 関税影響(△) 交易条件(+) 為替(△)
ソリューション事業	➡	事業構造改善を着実に進捗 (アドミ機能合理化)	OEMの開発費抑制に伴う受注減	数量(△) 構造改善(+)

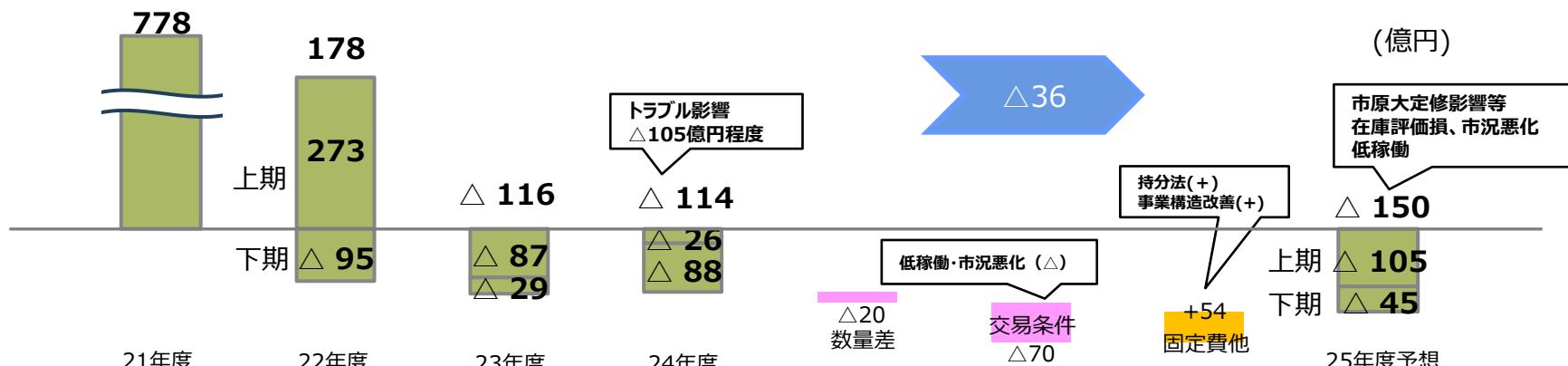


4-3 ICTソリューション: コア営業利益増減/事業動向 (対前年)

	動向	25年度予想/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
半導体・光学	↗	先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加	・円高による為替差損 ・新製品開発加速に向けたコスト等が増加	数量(+) 為替(△) 固定費(△)
コーティング機能材	↗	・環境対応包材用途を中心に販売は堅調に推移 ・原料価格変動に伴う交易条件の改善	・円高による為替差損 ・新プラント稼働による固定費増加(PUD・特殊イソシアネート能力増強)	数量(+) 交易条件(+) 為替(△) 固定費(△)
ICTフィルム・シート	↗	先端領域の需要拡大および半導体市場の需要回復による販売数量増加	円高による為替差損	数量(+) 為替(△) 固定費(△)
不織布	↗	・事業構造改善を着実に進捗 (生産体制最適化) ・原料価格変動に伴う交易条件の改善	衛生材料の販売数量は減少	交易条件(+) 構造改善(+) 数量(△)



	動向	25年度予想/事業動向		増減
		主要増加要因(+)	主要減少要因(△)	
石化	➡	24年度大阪エチレンプラントトラブル影響の解消	・低稼働に伴うエネルギー効率悪化 ・原料価格下落による在庫評価損 ・市原大定修に伴う固定費増加	トラブル解消(+) 数量(△) 交易条件(△) 在庫(△) 固定費(△)
基礎化	➡	事業構造改善による収益改善	原料価格下落による在庫評価損	数量(△) 在庫(△) 構造改善(+)
ウレタン	➡	・持分法投資損益の増加 ・事業構造改善による収益改善	—	持分法(+) 構造改善(+)



5) セグメント別 コア営業利益増減 (対前年下期同期、3Q→4Q)

(単位：億円)

セグメント	24年度	25年度				主要増減要因 3Q→4Q	主要増減要因 (対前年下期)
	下期決算	3Q決算 (a)	4Q予想 (b)	下期予想	増減 (b-a)		
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	188	40	185	225	145	数量(+) 農薬、オーラルケア	数量(+) ビジョンケア、農薬構造改善(+) オーラルケア
モビリティソリューション	267	115	155	270	40	数量(+) 自動車用途等	数量(△) 自動車用途等構造改善(+)
I C T ソリューション	139	107	70	177	△ 37	数量(△) 季節要因	半導体需要好調
成長領域	594	262	410	672	148		
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	△ 88	△ 23	△ 22	△ 45	1	稼働率改善、賦課金(△)	構造改善(+)、持分法(+)
その他	△ 24	△ 4	△ 38	△ 42	△ 34		
合 計	482	235	350	585	115		

6) キャッシュ・フロー計算書の予想

(単位：億円)

摘要	24年度決算		25年度予想		増減 年度 (b)-(a)
	上期	年度(a)	上期	年度(b)	
I . 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	1,180	2,005	1,272	2,000	△ 5
II . 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 483	△ 1,650	△ 576	△ 1,550	100
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	697	355	696	450	95
III . 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,045	△ 744	△ 728	△ 450	294
IV . その他 (現金等に係る換算差額)	△ 45	△ 8	15	0	8
現金及び現金同等物増減	△ 393	△ 397	△ 17	0	397

4. 補助資料

- 1) 製品価格の状況
- 2) 売上収益の増減概要（対前年同期）
- 3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳（四半期別）
- 4) セグメント情報
- 5) データハイライト

1) 製品価格の状況

(P E国内、P P国内、P H国内、B P A国内：国内価格改定幅)

年		2023年				2024年				2025年			
月		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
国産標準 ナリ価格	(円／KL)	66,500	67,500	63,600	72,800	72,500	79,000	76,900	73,200	73,400	66,300	63,200	65,600
P E国内	(円／KG)	△10円程度	+8円程度	△6円程度	+20円程度	△3円程度	+22円程度	△5円程度	△7円程度	△1円程度	△11円程度	△5円程度	+4円程度
P P国内	(円／KG)	△10円程度	+8円程度	△6円程度	+20円程度	△3円程度	+22円程度	△5円程度	△7円程度	△1円程度	△11円程度	△5円程度	+4円程度
P H国内 (ホーミュラ価格)	(円／KG)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
B Z (* A C P)	(\$/T)	\$930	\$940	\$870	\$950	\$995	\$1,085	\$1,040	\$930	\$930	\$770	\$765	\$700
B P A国内	(円／KG)	△17円 (3月～)	+16円 (6月～)	→	→	→	+19円 (6月～)	→	△14円 (10月～)	△10円 (1月～)	→	△25円 (9月～)	+5/kg (10月～)
BZ/BPA市況をベースに都度交渉													
T D I 中国市況	(\$/T)	\$2,430	\$2,190	\$2,060	\$1,950	\$1,920	\$1,950	\$1,880	\$1,750	\$1,780	\$1,560	\$1,690	\$1,680

* ACP アジア圏契約価格

2) 売上収益の増減概要（対前年同期）

(単位：億円)

セグメント	売上収益			増減内訳		主要増減要因
	24年度 1-3Q決算	25年度 1-3Q決算	増減	数量差	価格差	
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	1,728	1,741	13	69	△ 56	数量) ビジョンケア・国内農薬の販売は堅調(+) 価格) 為替影響等(△)
モビリティソリューション	4,165	3,828	△ 337	△ 145	△ 192	数量) エラストマーの販売は堅調(+)、子会社株式の譲渡(△) 価格) 為替影響等(△)
I C T ソリューション	2,097	2,084	△ 13	16	△ 29	数量) 半導体関連の販売は堅調(+)、子会社株式の譲渡(△) 価格) 為替影響等(△)
成長領域	7,990	7,653	△ 337	△ 60	△ 277	
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	5,288	4,425	△ 863	△ 565	△ 298	数量) 事業構造改善(プラント停止等)(△) 価格) 原料価格下落による価格改定(△)
その他の	110	109	△ 1	-	△ 1	
合計	13,388	12,187	△ 1,201	△ 625	△ 576	

3) セグメント別 売上収益/コア営業利益の内訳 (四半期別)

(単位 : 億円)

セグメント	売上収益*							
	24年度				25年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月 予想
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	566	589	573	789	563	590	588	959
モビリティソリューション	1,403	1,365	1,397	1,386	1,302	1,280	1,246	1,272
ICT ソリューション	683	715	699	679	690	680	714	716
成長領域	2,652	2,669	2,669	2,854	2,555	2,550	2,548	2,947
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	1,808	1,702	1,778	1,812	1,562	1,394	1,469	1,575
その他の	35	38	37	38	37	38	34	41
合計	4,495	4,409	4,484	4,704	4,154	3,982	4,051	4,563

(単位 : 億円)

セグメント	コア営業利益*							
	24年度				25年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月 予想
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	59	94	52	136	62	68	40	185
モビリティソリューション	155	129	148	119	146	114	115	155
ICT ソリューション	62	66	83	56	90	88	107	70
成長領域	276	289	283	311	298	270	262	410
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	39	△ 65	△ 47	△ 41	△ 29	△ 76	△ 23	△ 22
その他の	△ 13	2	△ 6	△ 18	△ 3	△ 15	△ 4	△ 38
合計	302	226	230	252	266	179	235	350

*25年度より、ライフ & ヘルスケア・ソリューション、モビリティソリューションおよびICTソリューションの一部の関係会社のセグメントを見直しております。
変更後の報告セグメントで区分した四半期別の24年度の売上収益/コア営業利益となります。

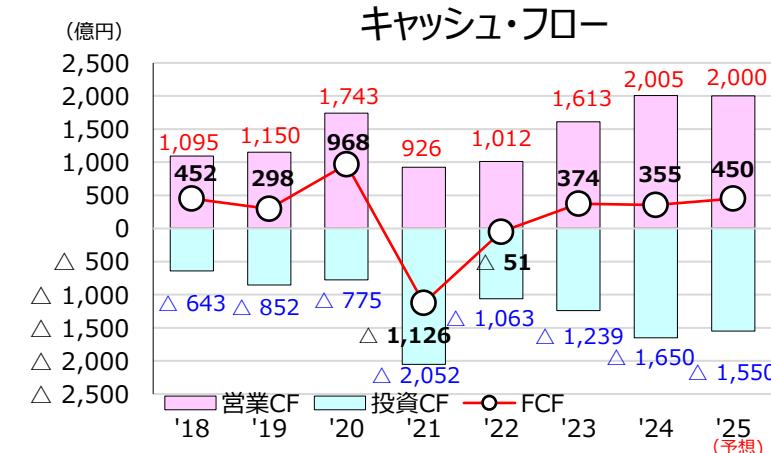
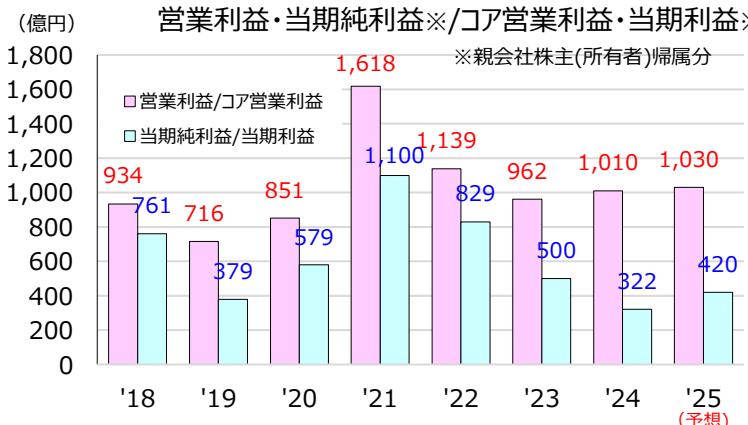
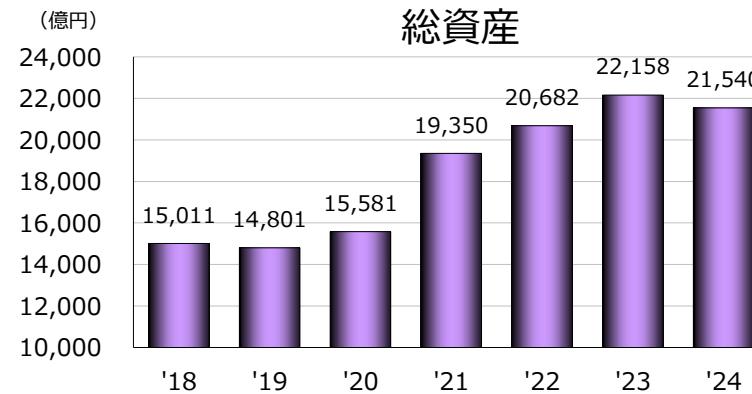
4) セグメント情報

セグメント	事業分野	主な製品等
ライフ & ヘルスケア・ソリューション	ビジョンケア、 パーソナルケア オーラルケア、農薬、 医療事業推進室	プラスチックメガネレンズ材料（MR™、Do Green™）、 メディカル材料（タウリン）、 オーラルケア材料（充填材料、接着材料、デジタル機器）、 農薬（ジノテフラン、テネベナール®）
モビリティソリューション	エラストマー重合、 複合材料、 ソリューション事業、 モビリティソリューション事業推進室	タフマー®、三井EPT™、ルーカント®、 PPコンパウンド、機能性コンパウンド（アドマー®、ミラストマー®、アーレン®）  
ICTソリューション	半導体・光学、 コーティング機能材、 ICTフィルム・シート、 ICT材料事業推進室、不織布*	三井ペリクリ™（DUV、EUV、FPD）、アペル®、TPX®、半導体用ガス、 高機能食品包装材料（シーラント、接着剤、コート剤、環境対応包材）、 ICTフィルム・シート（イクロステープ™、SP-PET™）、 不織布*（衛生材料、産業資材）
ベーシック & グリーン・マテリアルズ	フェノール、PTA・PET、 インダストリアルケミカルズ、 サステナブル・フィードストックス、 ポリオレフィン、ライセンス、 ポリウレタン材料 グリーンケミカル事業	フェノール、ビスフェノールA、アセトン、PTA、PET、 EO、ハイドロキノン、アンモニア、排ガス低減剤（アドブルー®*）、 ポリオレフィン、TDI、MDI *アドブルーはドイツ自動車工業会の登録商標です。

*不織布事業および製品は24年度まではライフ & ヘルスケア・ソリューションですが、25年度からはICTソリューションへセグメントを見直しております。

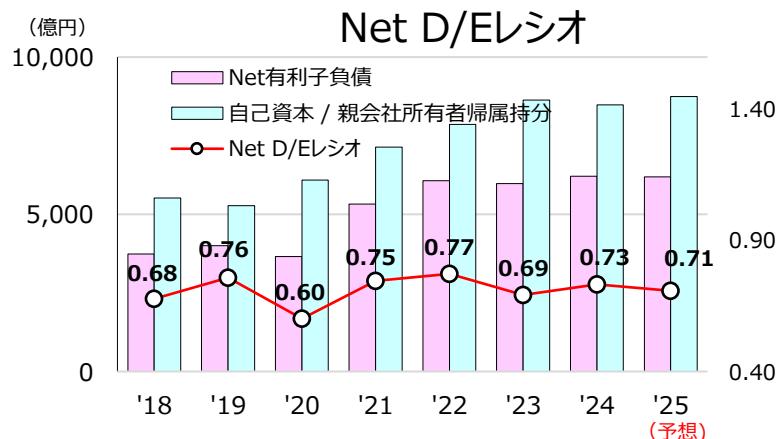
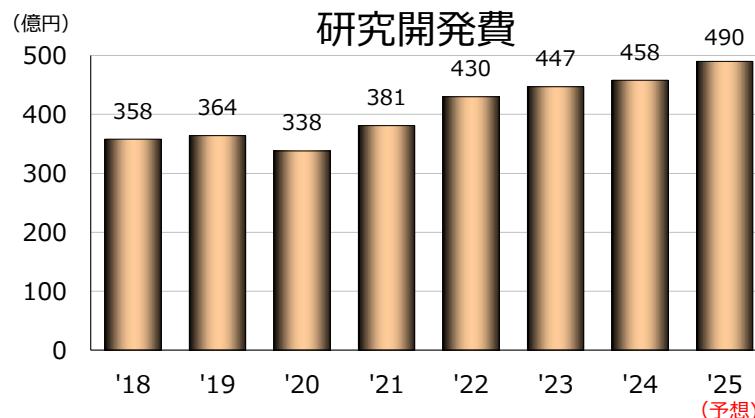
5-1) データハイライト

注) ~19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



5-2) データハイライト

注) ~19年度：日本基準 / 20年度～：IFRS



未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World



三井化学

Challenge Diversity One Team